

青年期女性の性同一性障害の2症例：ロールシャッハ・テストとHTPPによる考察

丹羽めぐみ^{1,2} 大森秀之¹ 人見一彦¹

¹近畿大学医学部精神神経科学教室 ²大阪市立大学大学院生活科学研究科

抄 録

当院の性同一性障害専門外来に来院した青年期女性の性同一性障害の2症例について、ロールシャッハ・テストとHTPPの人物画を通して、性同一性を中心にその心理的特性を検討した。結果、2症例の共通点は1. 性別の同一化が曖昧なために思春期に身体変化の衝撃を大きく受けており、身体の生々しさを受け入れられない、2. 母親が同性のモデルになり難く、身近に性同一性の方向性や目標の手がかりとなる対象を見つけ難い、3. そのような性同一性が不安定な状態で性同一性障害という概念に同一化することで、精神的な安定がもたらされている。一方異なる点は、同性と異性への同一化の程度であった。

Key words: ロールシャッハ・テスト, HTPP, 人物画, 性同一性障害, 青年期女性

緒 言

性同一性障害 (Gender Identity Disorders 以下GID) は、「生物学的には完全に正常であり、しかも自分の肉体がどちらの性別に属しているかをはっきり認識していながら、その反面で、人格的には自分は別の性別に属していると確信している状態」と定義される¹。生物学的に女性であるが自分は男性だと性別認識をもつ場合にはFemale To Male (以下FTM)、生物学的には男性で性別認識が女性である場合にはMale To Female (以下MTF) といわれる。

診断における人格水準の査定と鑑別診断、その後の治療をどのように進めるかを決定するにあたり、心理検査が一つの資料とされる。心理検査のなかでも人格水準を査定できるもので、投影法ではロールシャッハ・テスト (以下ロ・テスト) が最も適切であるが²、人物画、バウム・テスト、SCT (Sentence Completion Test 文章完成法) なども妥当とされ³、また家と樹木と人物描画検査 (House-Tree-Person test 以下HTPP) もその有効性が報告されている⁴。

これまでにわが国でも心理検査によるGIDの研究が報告されている。依存性に焦点を当ててロ・テストを通してGIDの中核群と周辺群の特徴を検討

したものや⁵、ロ・テストと質問紙検査などからGID、FTMとMTFの特性を検討したもの^{2,6}、HTPPの特に性に関連するサインを取上げてFTMとMTF、中核群と周辺群間における差異を検討したものの⁴、そして質問紙検査からFTMとMTFの特性を検討した研究⁷などがある。これらの結果は、FTMよりもMTF、そして中核群よりも周辺群に精神的な不安定さがみられるという点はほぼ一致しているようであるが、その他詳細な心的特性についてはさまざまである。一方、症例報告のなかでもロ・テストの結果がいくつみられるが⁸⁻¹⁰、より詳細にロ・テストのプロトコルを分析しているものは、GIDのなかでも女装症の症例報告である¹¹。そこで、本研究では青年期女性の性同一性障害の2症例について、ロ・テストのプロトコルの詳細な分析とHTPPの人物画の解釈を通して、性同一性の発達について考察する。

症例の分析

症例1 20代女性、未婚。GID周辺群。性的な未成熟さのため性成熟障害¹²と診断。

1. 生育歴

両親に離婚歴はなく、女の子として育てられるが、5, 6歳頃より性別の違和感を感じ始める。身体に

対する嫌悪感は物心ついたところからある。中学生の頃にGIDを知る。恋愛対象は12,13歳頃まで男性で、それ以後は女性である。サービス業に従事し、男性として生きることを望んで来院。

2. ロ・テストの結果

ロ・テストのプロトコルを表1に示す。なお、ロ・テストは片口法¹³に基づく(症例2も同様)。

形式分析については、反応総数(R=17)、平凡反

応(P=3)、決定因カテゴリーの種類の数(Determinant Range=7)、一次的良形態反応率($\Sigma F + \% = 73$)より、内的生産性は平均的で、一般的な判断力も備えている。体験型(M: $\Sigma C = 1:5.25$)は外拡型であり、また純粹形態反応(F%=18)は極めて少ない。そのため外界を客観的に把握したり内的感覚を活かすよりも、外的な現実に応答させられやすい。ただ潜在的には内向的体験型(FM+m:Fc+c+

表1 症例1のロールシャッハ・プロトコル(注:カットWはCW, マイナスプラスは-+と表記する。)

自由反応段階		質疑段階
I ①8"△	どれくらいで言うの?もう言っている?牛。この牛は羅生門の焼肉屋さんの牛に。	これが角,耳で目で目で,顔ってかんじ。(羅生門の焼肉屋さんの牛?)なんか黒いから。 W, S FC'± (Ad)
②41"△(51")	あと,こうもりかな。	見たまんまで。これが羽で,何て言ったらいいんですか,これ身体で,黒いから飛んでるって。 W FM, FC'± A P
II ①2"△(27")	え~血。え~何に見えるって...〈頭かく〉向きはこう?△▽何も見えな	赤いから〈笑〉この辺全部が。 W CF-+ Blood
III ①1"△(28")	えっと,人と人。好きな人と好きな人。	これが赤いから。ハートとハートに見えて。(性別?)あ~それがなんかよくわからなかって。ヒールがあるから,女かな。でも,胸があるから,女かな。ペニスがあるし,男かも。まあ,何でもいっかみみたいな〈笑〉 W F, FCsym± H, Abst
IV ①1"△	えっと,大きい人,あの大きい人。	これが足で,こっちが顔。顔の具合の方がちっちゃいから。下から見てるかんじで。自分より大きい人ってかんじ。手があって手が短いから,足に比べて。 W FK± H
②11"△(18")	あと,カラス。	やっぱ黒いからと。くちばしに見えるのと,偉そうなかんじが,カラスっぽいかな。(偉そうなかんじ?)下から大きく見えて,①にもあるんですけどのけぞってるかんじ。 W FM, FC', FK-+ A
V ①6"△	水の中における天使って言われる,クリ...クリオネでしたっけ?あれです。	この辺がなんかクリオネ。角みたいな。いろんな絵に比べてちっちゃいから,クリオネっぽい。クリオネって羽ありましたっけ?手みたいなのがこれ。 W F-+ A
30"(36")	あとなんか線対称ってかんじ。	なんか,ここに線ひいたら,数学の左右対称っぽいなど。(反応?感想?)感想。
IV ①10"△(21")	え~,東京タワーってかんじ。	この辺よくわからないんですけど,高さがあって高いから。一番高い東京タワーってかんじ。下に比べて上がちっちゃいから。高く見えて。 dr FK-+ Ar c h
VII ①6"△	あの,結婚式場とかの天使が横にいるやつ?	これがひとりで,これがひとりの天使で,飛んでるっぽかったから天使で。持っているのが垂れ幕か,ベルを持っているかんじだったから。結婚式場の。この辺顔,鼻に見えて,あご先,髪の毛がクリンってなってるから外国っぽい。丸いから,日本人はストレート,丸かカールついた外国の。足が上向いてるから,飛んでるかんじ。アンパンマンとかも飛んでる足横に行くから。(垂れ幕,ベル?)どっちでもいい。どっちも持ってそうやから。どっちでもいいかなってかんじ。 W M+ (H), Obj
②20"△(24")	あと,トムジェリ(トムとジェリー)のインディアン。	なんか,ちっちゃい時にトムジェリよく見せられてたときに。ジェリーがインディアンの格好をしてた時に,こんなやつだったから。と,ちっちゃいからジェリーってかんじ。ジェリーじゃない。その子分でねずみみたいな。インディアンの双子みたいなんがいて。 D F± (A)

VIII①6"△	カエルが山に登ってる。	これがカエルで、これが緑やから山。縦向いてるっていうか、だから登ってるかんじ。(カエル)こころへんが太くて、こころへんが細くなってて、他の動物はちがう。このまるくなってるのが目っていうか。 dr FM, CF± A, Na P
②25"▽ (30")	心臓と肺でしたっけ。それと胃ってかんじ。	順番はそれで合ってるかわからないですけど。赤いから心臓に見えて。理科とかで見たらこんな形かかって。その下に次の臓器があって。色別されてるから身体の中に見えて。知ってる臓器っていったら肺と胃。 CW F/C-+ At
IX①3"△	かぶ。	赤くて、葉っぱ。かぶがいっぱい。4つあるかんじ。 CW FC± Food
②9"▽ (12")	にんじん。	オレンジやからにんじんで、葉っぱがあるから。 W FC± Food
X①2"△	タツノオトシゴ。	これがタツノオトシゴ。持つてる抱き枕が赤色でタツノオトシゴ。この辺が口で、ちょっと曲がってるから。赤色ってかんじで。 D F/C± A
②9"△	海の中ってかんじします。	やっぱ青いから。タツノオトシゴもおるし、他のものも魚介類ってかんじが。(魚介類?)どれがどれとかは知らないですけど、周りにいるのがそんなかんじ。 W CF-+ Na
③19"△ (27")	双子の赤ちゃんがなんかお腹の中にいる絵ってかんじ。	双子がこうやって生まれるんかわかんけど。お腹の中の赤ちゃんで、これがへその緒で、双子ってつながってるイメージがあるから、そんなかんじで。(赤ちゃん?)へその緒見たから。赤。お腹にいるとピンク色っぽいから。(へその緒?)上からきててつながってるから。(絵?)適当に言ってみただけで。 D F/C± (H)

Most Dislike Card : IX「あんまり何にも見えないから。わかりにくい」

Most Like Card : III, VII, X「全部幸せそうに見える感じ。Xはタツ,, , じゃなくて、赤ちゃんやったから。」

Father Image Card : VとIを迷ってV「クリオネほいのは、ちっちゃい。お母さんのこと優しくできない子どもなところ。海んなかに一人でいる感じ。」

Mother Image Card : VII「優しい感じ。あんまり世間とか気にしてない。気にしてるように見せない。その人が幸せやったらいいんちがう?って。」

Self Image Card : II「これは今、人のことをわかろうとしてる僕。優しい人になりたい。前よりもちょっと優しくなってるのかな。色がいっぱいのほうがどんな色でも対応する。自分はまだ二色。」

C'=3:2) であるため欲動や想像性などを現実場面に活かしきれていない面がある。内容カテゴリーの種類の数(Content Range=7), 人間運動反応(M=1)より, 興味・関心の幅は平均的で知的には高いとはいえない。しかし全体反応(W=71%), 全体反応と人間運動反応の比(W:M=12:1)から, 要求水準が高く能力以上に無理をする傾向がある。彩色図版に与えられた反応数の反応総数に対する比(VIII+IX+X/R=41), 初発反応時間の平均(R₁T(Av.C.C)=2.8)より, 情緒刺激に大変動かされやすく, 感情を抱えて耐えることは苦手である。彩色反応の比(FC:CF+C=5.5:2.5), 不自然な形態彩色反応(F/C=3)より, 感情を状況に合わせて適応的に表現できているようであるが, 表面的であり, 感情を自分のものとして実感できておらず, 周囲にはどこかよそよそしい印象を与える。またΣF+% = 73, 総良形態反応率(R+% = 65)から, 情緒刺激の影響により現実吟味能力がやや低下する傾向がある。人間運

動反応と動物運動反応の比(M:FM=1:3)より, 内的な欲動や衝動の統制も良いとはいえず, 未分化な欲求を知的に処理できずに行動する傾向がみられる。

以上の形式分析とプロトコルより, 本症例は外的現実よりも感情, 感覚を優先する傾向を有し, また対象認知が曖昧であり, 葛藤を葛藤として保持することができない。

以下に, 継列分析と反応内容から男性性・女性性各々の特徴について検討する。人間反応(H=3), 非現実的人間反応((H)=1)では, 性別についての自発的な言及はなかった。III図版の①にHを出すのが性別を回避するような表現をし, 性別を問われると迷いを示し, 両性を認知するもどちらかに決定することを避けている。その他の人間反応は, IV図版①, VII図版②, X図版③であるが, いずれも性別への言及はされていない。

本症例にとって性別を意識することは葛藤を引き

起こすため、性別の意識化は抑えられている。次に男性性の特徴は、ペニスへの関心、男性性への憧れと同一化が強いことである。ペニスへの関心は、III図版とVI図版にみられる。III図版①で性別を問われて、「ヒール」「胸」を見てから、「ペニス」を見ている。女性性だけに同一化しきれず、男性性も気になって無視できない状態が示されている。VI図版ではD₁は男性器に、D₁を除いた図版の下部は女性器に見られやすい。この図版の反応は「東京タワー」である。「塔」はペニスを象徴するとされ、ペニスへの強い関心、憧れが表れている。

次に男性性への憧れと強い同一化について、IV、V、VI図版により継列的に反応内容を検討する。まずIV図版は、「大男」が反応として見られやすく「父親カード」といわれ、また濃淡からは愛情欲求を刺激されやすいのが特徴である。本症例は①に「大きい人」を見ており、「大きい人」つまり男性に対する服従性や男性に対して自分を小さな存在と感じていることを表わしている。しかし、②で「カラス」を出す、①による動揺で形態は不良になり、「大きい人」には表現できなかった反発や攻撃性が表わされている。

続くV図版では、他の図版よりもインクのしみの面積は小さいが、①の「クリオネ」をIV図版の①「大きい人」と比べて小さな対象として見ている。ここでもIV図版の「大きい人」で服従性が刺激され、その動揺により形態は不良である。①「クリオネ」の後で述べられた感想の「線対称」という表現には、知性化により動揺から回復しようとする動きが示されている。本症例はV図版を父親イメージカードとしており、①の説明と合わせると、父親像を矮小化しようとする動き、父親に対する攻撃性が認められる。

VI図版は、①が「東京タワー」で、高さを強調している。この図版は濃淡からは依存欲求が刺激されやすい。本症例では愛情欲求や性・セクシャリティを刺激されると独特の見方になり、ペニスへの関心が表れる。「東京タワー」では、下から見上げているという距離感を含んだ反応がみられる。IV図版とともに、愛情欲求が刺激されると、他者に対して服従的な態度になる。

以上より、ペニスへの関心、男性性への憧れと同一化が強いために、愛情欲求を刺激されると他者との間で対等な愛情関係を結び、成熟した愛情欲求を満たすことが困難になる。男性に対してはペニスがない自分を意識させられ劣等感を感じ、不安を喚起させられる。

次に女性性の様子を、女性器への態度と、母親、

つまりは女性性への同一化という点からVII、II図版の反応に注目する。VII図版はその淡い濃淡の様子から、「母親カード」といわれる。この図版のD₃も女性器に見られやすい。①では、このD₃の対象を明確化することを避けている。女性器の受け止め難さがみられる。

II図版の①では困惑を示して「血」と反応し、その後も図版の向きを確認するような動揺を見せ、結局「血」から離れることに失敗している。二次性徴を“生々しいもの”として感じ、それとどのように付き合っていくかということに困惑している。

次に母親、女性性への同一化についてみると、本症例は母親イメージカードとしてVII図版を選ぶ。VII図版は女性的な印象が強いといわれるが、①「天使」では日本人ではなく外国人と強調し、②では「トムジェリ（トムとジェリー）のインディアン」と人間ではなくアニメのキャラクターと表現している。母親について「神様の、大仏的な人」と述べており、母親は人間を超越した存在のようであり、自分と同じ視線に立っていない人、同一化の対象としては大きすぎる存在として体験されている。しかし、女性性の獲得が全くみられないわけではない。III図版①には性別を問われて、女性性の特徴を述べている。X図版③では「双子の赤ちゃん」が見られる。Klein¹⁵は、母親と同一化した女兒は父親のペニスを受け止める存在としての母親に同一化し、自分の体内にも赤ちゃんが宿っていると想像することから、女性性が獲得されると考える。その点から幻想的で幼いものではあるが、女性性の獲得の萌芽がみられる。

以上より、本症例は、若い女性性に対してはある程度同一化できているものの、身体性をも含めた生々しい女性性は、受け入れられずに圧倒されている。最も身近で同一化の対象となりやすい母親も、生々しさを感じさせにくい存在であるため、同一化のモデルにはなり難い。

3. HTPP

HTPPの人物画を図1に示す。HTPPの施行は高橋¹⁴に基づき、両性の人物画を描いている(症例2も同様)。男の子、女の子の順でランドセルを背負った小学生を描く。どちらも小さく描かれアニメのキャラクターをモデルとしており、ここでも生々しい人間を避けて、抽象化が用いられている。対人関係に不安を抱いており、男性像により不器用さが表れている。感情や衝動の統制も苦手である。

男性像、女性像ともに未熟で、性別イメージも幼く、自我同一性の確立までには至っていない。男性像を先に描いたことは、本事例の男性に対する同一化傾向を表わしている。これらはロ・テストから見

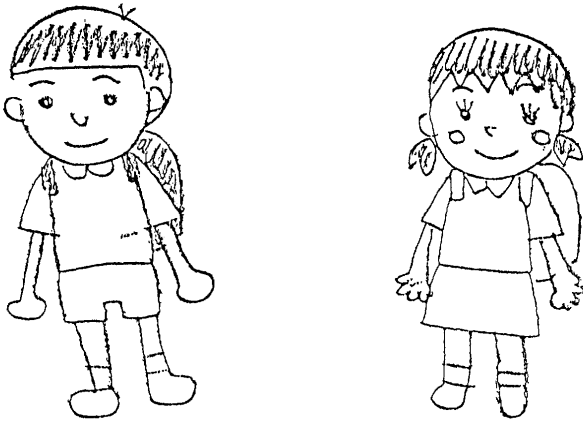


図1 症例1のHTPPの人物画

られた特徴とほぼ一致する。

症例2 10代女性，未婚，GID 周辺群，人格の未成熟さを抱えるため他の心理的性発達障害¹²と診断

1. 生育歴

両親に離婚歴はなく，女の子として育てられる。初潮を迎えた頃のことはよく覚えていないが，何も感じていなかった。恋愛対象は14，15歳頃までは男性，それ以後は女性である。15歳頃より生理や身体への嫌悪感は強くなり，15，16歳頃から性別の違和感を感じ始め，高校生の頃にGIDを知る。アルバイトに従事し，男になりたいわけではなく男女の間あたりであることを望み来院。

2. ロ・テストの結果

ロ・テストのプロトコルを表2に示す。

形式分析については，反応総数は多く(R=38)，観念活動が活発で，想像力も豊かである。現実吟味能力は十分に有しており，世間一般的な見方ができる($\Sigma F + \% = 82$, $P = 5(13\%)$)。興味・関心の幅も広い(Determinant Range=9, Content Range=11)。M=5.5と多く，形態水準も良いことから，高い知的能力を備えている。W:M=14:5.5，全体反応と普通部分反応の比(W:D=14:12)より，要求水準は高過ぎず，物事を現実的に把握してできる範囲内で取り組む傾向がみられる。全体反応は比較的少なめで(W=14(37%))，物事を総合的にとらえることを苦手とする。またWの質は統合的で優れたものから，漠然と全体をとらえて外輪郭が曖昧なものや形態不良のものまで幅広い。II図版の①，VIII図版の③でWの形態が不良になっていることや，VIII，IX，X図版でWが減ってDと特殊区分反応(dr)が増えている点には，情緒刺激にさらされると知性を発揮し難く，現実吟味能力が低下する場合があること，また独特な見方を示す傾向が表れている。体験型は両向的体験型で(M: $\Sigma C = 5.5:4.25$)，感受性

が豊かであり情緒表現の力も備えている。人への関心は高く，情緒刺激に反応しやすいが，感情表現は抑えられており，表現する場合には状況に適切に合わせられずに自己中心的になる傾向がみられる(H=11, VIII+IX+X/R=39%, FC:CF+C=0:4)。またII図版の質疑段階で①の後に付加反応として空白領域を使い，VII図版①でも空白領域に反応していることには，情緒刺激や依存欲求を引き起こす刺激を回避する様子が表わされている。豊かな内的資質を備えており知的にも高いが(M=5.5)，それらを情緒を介した対人関係に活かすことが難しい。潜在的には極めて内向型体験型であり(FM+m:Fc+c+C'=7:3.5)，非生物運動反応は多い(m=4)。想像性と潜在的なエネルギーを持って余し，社会的に受け入れられる形で表現することが難しい傾向がみられる。

以上の形式分析をふまえて，プロトコルから特徴として挙げられるのは，対象認知と内的感覚が定まりにくいことである。I図版①は対象認知が継時的で，内的感覚も定まり難い。IV図版の③でも対象が定まらず，それを定めようという姿勢がみられない。本症例は反応を一つに定めようとしにくい面があり，葛藤を葛藤として感じ難い未熟さといえる。葛藤を感じ難いうえに内的感覚を位置づけ難い。そのため対象と安定した継続的な関わりをもち難く，空想の世界で想像性を活かすことで外的現実から身を引いている。X図版⑦では人と支え合いたい欲求が示される。依存関係を求めるけれども傷つきやすく，身体が暴かれるような身体感覚レベルでの不安を感じやすいために，愛情欲求が刺激される場面は回避されるか，欲求は過度に抑えられる。内的感覚が定まり難いため，自分の心の内を探求したり“自分らしさ”を実感することも難しい。自己イメージカードにはX図版を選び，理由やX図版の②には，部分各々の認識は漠然としているが，自己イメージがぼらぼらの状態からまとまりへと向いていることが表わされている。

以下に継列分析と反応内容から男性性・女性性各々の特徴について検討する。

人間反応はH=6，(H)=3，人間部分反応(Hd=3)で，性別の言及が自発的にされたのはI図版②のみであり，性別は意識され難い。しかし，I図版②の説明では女性らしさに触れている。その他，VI図版④，VII図版②でも，性別を問われると女性の特徴を述べている。一方，IV図版では，「一人の人」を見て，性別を問われると男性と述べ，X図版④では男性について説明している。

男性像・女性像ともに，性別を問われれば述べる

表2 症例2のロールシャッハ・プロトコル (注: カットWはCW, マイナスプラスは-+と表記する.)

	自由反応段階	質疑段階
I ①5" 八 > V	顔 <笑> この辺が目で、口に見えるかなって。動物っぽい耳かな…怒ってるようでも笑ってるようでもある。縦にしたらダメ?	目, 鼻, 口っていう。ちょっと牙みたい。ちょっと目が怒ってるっぽいねんけど, 笑ってる口っぽいかなあ。 W, S FM± A d
②2'00" V V 八 (2'48")	ここ2人の人で頭で、足であんまこの辺は考えてないですけど,, にも見える。	この2つが頭で、足で、手に見えて、互にこう (ges) やってる<笑>。たぶん女の人やと思うんですけど, 長い髪の毛, スカートのっぽい。ちょっとふくらんだかんじ。 D M, Fc± H, Cloth
II ①10" V > 八 V >	<笑> なんかこの辺が足に <笑>	内股。たぶん靴下やと思うんですよ。薄いところが素足。たぶんここ足やから頭かなと。頭思ったんですけど, なんか破裂したかんじやったんで。(破裂?) 赤でこう飛び出してるかんじ。ちょっとエグい。 W mF, CF-+ Hd, Cloth
②1'09" 八 (1'48")	黒い部分だけで2人の人がここで, こう <ges> 手合わしてるみたいな。そんなかんじかな。	この辺が顔, 手, 膝を折り曲げて, パーみたいな<ges>。この辺が, フードの風パー吹いてて風の勢いでパーなってるみたいな。足で。(性別?) ドワーフみたいなの窟に住んでる人的な。たぶんちっちゃいおっちゃんです。フードの辺り, 着込んでると思うんですよ。この辺ボアってしてて, この辺そで, この辺も服のしわがいつてるようにも見たんで。 CW M, Fc, Fm+ (H), Cloth (add) ここが白いのがボーリングのピンっぽいかなと思っただんですけど。ここが広がってるからちがうなあ。 S F-+ Obj
III ①11" 八	この辺が目でなんか虫っぽいかんじの顔かなって。	ハチとかハエとかあの辺の。目が目立つような。口で, 目で足やと思うんですね。ここまでD3入れたら, リボンっぽいんで可愛らしくなる。可愛らしくなってもええんやけど。 d r F± A
②42" 八 V > V < 八	これもなんか2人の人で, ほんでなんか妖精っぽいのが飛んでる <笑>。	なんかこうちょっと, 尻と腰の辺りを突き出したような, キャインっぽいかんじの。頭で足で手かな。 CW M± H, (H) P
③1'50" 八 (2'07")	この白い部分で鳥みたい。	この辺, 曲がってるところが口ばしで, 羽です。下の羽, スフィンクスっぽいかんじの。羽が後ろに広がってる。 S F± A
IV ①26" 八	一人の人がこの辺で顔, 手, 足で下から見上げてるかんじのような。	この辺顔で手で, こう足の裏と。自分の目線から, 見下ろされてるかんじ。この辺が顔で, だんだん広がっていつてるからやと思うんですけど。あとは, 悪っぽそうな顔やなっていうかんじがしたんで。手もこう <ges> やって, 足も開いてるんで威圧感が。(性別?) 魔王っぽいかんじがしたので男の人です。 W FK± (H)
②59" 八	この辺が牛骨みたいな牛っぽいかんじ。	この辺が目で角で口の辺り。(牛骨?) 骨です。デッサンで使うモチーフの一つ。 D F± A. At
③1'23" V 八 > V <	こうもりとかモモンガとかああいう感じの鳥かな。	この辺顔, 羽が広がってるかんじなんですけど, この辺がギザギザってなってるんで。こうもりっぽいかんじもしたんですけど。目が可愛いんでモモンガも入れておきました。どっちでもいいかな。 W F A
④2'44" > (3'20")	この辺の型がヨーロッパっぽいかんじがする <笑> ヨーロッパかな?	このライン, この辺がイタリア。海で, 陸。 S, dr F-+ Geo
V ①5" 八	ちょうかな。	そのまま。頭の辺りで, 足。足やったかな? 羽パーって。 W FM± A P
②20" 八 > 八 < V (2'08")	この辺だけが, でもカニっぽいかんじ <笑>	カニの手足, 手。 dr F± Ad

VI①6"△	ギターっぽいかんじ〈笑〉	このあのギターのもつとこで、たぶん弦があるかんじなんですけどね。筋だけ。この辺りにあったかな、でギターっぽい。 D F± Music
②27"△	この辺がインディアンっぽいかんじにも…かな。	インディアンの人が頭等辺につける羽みたいな模様に見えた。 D F± Obj
③49"△	あとなんか、何たっけヒラメっぽい。	魚をひらいたあとのかんじ。真ん中で骨があるかんじで。(骨?)想像で。開いてあるやつ。 CW F± Food
④1'12"▽△>▽<	2人の人が背中合わせの。	頭、手、足かな。手出して。(性別?)たぶん女の子やと。この出てる部分が髪の毛。はねてる部分とか、この辺もスカートっぽいかなあとも思ったんですけど。 W M± H, Cloth
⑤2'51"▽ (3'10")	この真ん中の線が地球の断面図っぽい。こう、中心に。	教科書。割った図で、この辺がマグマの中心あたり。真ん中だけ。もしこの辺見るんやったら、地球の真ん中。パッと見たら、真ん中だけ。薄い色の辺りだけ含んでもいいかな。四等分したやつやった思うんです、その図は。 D F-+ Geo
VII①27"△	この白い部分が縄文土器っぽい。	上で、この土器のうねうねっぽくて、下の丸いかんじも土器。 S F± Obj
②42"△>▽<	あと、ここが顔、2人。	顔、身体、手で、下半身辺りで、吸い込まれていくような。この辺だけが濃いんで。これ髪の毛で、パーって吸い込まれていってるからパーって上にいってる。 W Fm± H P
③1'32"▽>△	ここはにわっぽい。ここ手こう〈ges〉やって。足こうパーってやってる〈笑〉。	この辺もくつついたら、一番いい形なんですけど、頭で手で足。 W Fm-+ (H)
④2'23"▽>△ (2'56")	この辺のまあもあしたのがキノコ雲みたいな。	この両方黒い部分だけで、なんかニュースで見るのをこの形に切取ったような。写真が灰色で、キノコ雲のときだけ白で、空が黒かったんで。 S, W C'F-+ Cloud
VIII①17"△	想像やけど、ロシア辺りのクリスマスっぽい。この辺が木で人?	なんかこう、クリスマスツリーのてっぺんでギザギザした。緑と赤やったんで、クリスマスじゃないかと。この辺が色が白いんで寒いところやと思うんですよ。人が2人で楽しんでるみたいな。頭、手で足。 CW CF, C'F, M± Pl, H
②50"△	この2色辺りが魚っぽい。	真ん中が骨っぽい。この辺の細かい線が骨っぽい。頭で魚です。 D F± A
③1'04"<	鳥っぽいかんじもすると。	頭で羽っぽく見たんで。 W F-+ A
④1'27"△>▽<	赤いところが熊みたいな。	ちょっと出るとこと、色がちょっと変わってるところが耳っぽい。背の曲線が熊っぽい。たぶんこれがシャケです。熊にはシャケ。 D, dr F± A P
⑤3'20"△ 4'16"	この真ん中の筋だけなんですけど、高速道路の夜のあのトンネルとかのオレンジの。	細く白っぽい辺りが道。ちょっと上に上がってる坂道で、この辺のオレンジ色が高速道路を思い出して、トンネル。この白いところが出口ですかね。(上にあがる坂道?)広がっててだんだん狭まっていくんで、坂道に見えたんやと。 dr CF, FK-+ Arch
IX①12"△△>	オリンピックのあの聖火の?あの。	この辺がオレンジが炎っぽいし上にあるんで。(上に?)カップっぽくて、そこに炎をそそぐかんじに。(カップ?)ちょっと水色で、炎をこうそそいでたようなかんじ。 dr CF, mF-+ Fire, Obj
②52"▽>▽	これが目、鼻、口の顔。この辺が髪の毛。	目で鼻で口かなって。この緑のとこが髪の毛。中年あたりのおばちゃんおじちゃんみたいな気が。 dr, S F± Hd
③3'12"△ (3'43")	この辺が金魚。	頭っていうか身体の部分で、尻尾。これがしっぽの線っぽいかんじがしたんで。出目金っぽいかんじやと思います。(金魚?)丸い。尻尾の辺りが。 D F± A

X①11"△	ここが何かピストルっぽいかんじがします。	ここが銃のあたりに。(銃?)黒色と真っ直ぐのところがあるどくて、うしろの三角の部分。D FC± Obj
②29"△	いろんな生き物がひとつのところに集まっていくかんじ。	これも1つの生き物。目で口で足、尻尾とかがある。これも頭で身体で足で。ほんで集まっていく感じがするよな。この辺も集まってると思うんですけど。何か断定はできなかった。W FM± A
③58"△▽	この水色のが海のサンゴみたいな。	この辺ギザギザ集まってるのを見て。水色やったし、海思い出したらサンゴやなって。D F, Csym± PI
④1'20"△>▽	顔、目に口で鼻、眉毛みたいな。	こう眉毛、目で口。たぶん鼻やと思う。たぶんおっちゃんやと思います。なんか眉毛の辺りが。dr F± Hd
⑤2'20"△▽△	黒いところがカニ。	こう足で手に見えて。サワガニとかちっちゃいかんじの。D F± A
⑥2'31"△<△>△	緑のところはタツノオトシゴ。海っぽいかんじ<笑>	こここうギザギザで口のこう。続けて考えたら海っぽいなど。集まってくるのは想像の生き物。D F± A
⑦4'08"▽ (4'25")	山の、山の崖。崖つぶちみみたいな。	赤いところでこう谷っていう。こうなってる。この2人の人が支え支え、ファイト一発みたいな。dr M± H, Na

Most Dislike Card : II 「ちょっとエグい感じがする。嫌いまではいかへんけど、苦手かな。」

Most Like Card : VIII 「白黒ばっかで,,、一番見た色つきで、色合いが好きやったんで。」

Father Image Card : VII 「灰色の部分が多いところ。なんか、近くにいても良い意味で存在感がない。」

Mother Image Card : IX 「さっきの顔の部分 (IX②)。髪の毛の辺りが、お母さん。くせっ毛やから、そんな感じ。」

Self Image Card : X 「何となくこれ。色んなものがごちゃごちゃしてる感じ。何となく。」

ことができ、男性像より女性像に対して特徴をよくとらえている。ただ、IX図版②では性別を問われても明確にしていない。

次に女性性について、本症例は女性像の特徴をみており、女性性にある程度同一化している。しかし、本症例の女性像で特徴的なVII図版②では、2人の人、おそらく女性像をみて、身体感覚が危うくなるような緊張感を伴う反応をする。この「吸い込まれていく」という吸い込み口が、D₃の女性器に見られやすい領域であることには、自分が女性器に吸い込まれるような不安や無力感が表わされている。そして③の「はにわ」は胴体の内部が空白領域である。②、③から、本症例は女性器を意識すると自分を失うような感覚にとらわれ、女性器を含む身体内部を受け入れられないけれども、内部があってこそ完璧な身体だと感じていることが認められる。

II図版の①で「頭」を見た赤色領域は、女性器に見られやすく、「破裂」は生理を連想させ、「エグい」と拒否的である。一方、VI図版①、②ではD₁を除く下部の領域の中心線を強調し、VIII図版⑤でも女性器に見られやすいD₂に対して知的に距離をとっており、女性器に対して回避的である。

母親イメージカードにはIX図版を選び、理由は表面的である。IX図版の反応は性別が明確にされず、女性性は感じられ難い。母親は女性性の生々しさを感じさせるような同一化のモデルにはなり難いことが示されている。

以上より、本症例はある程度女性性に同一化しているけれども、女性器からは恐怖と不安を喚起されて容易には触れられず、受け入れることが困難になっている。そして、最も身近な女性である母親は、女性モデルにはなり難い。

男性に関する反応をみると、IV図版①には男性性に対する被害感や威圧感が示されている。X図版の④は男性性の印象は薄い。

父親イメージカードにはVII図版を選ぶ。VII図版は淡い灰色から女性性や漠然とした不安を感じさせやすい。①では灰色を回避して空白領域に反応している。灰色については、④の「きのこ雲」の「空」の部分で触れており、「空」は実体がない。父親イメージカードでもこの灰色について述べており、父親は実体がなく、「存在感がない」と表現している。父親に対する積極的な同一化傾向はみられない。

3. HTPP

HTPPの人物画を図2に示す。人物画はどちらも用紙いっぱい堂々と描く。1人目に「中性」の思春期前の子どもを描き、心の中にいる自分だと述べる。絵には対人関係での不器用さ、硬くなさがうかがえ、感情表現は抑えられている。性別意識は未熟で、性同一性と自我同一性の確立は今後の課題といえる。2人目には1人目よりも少し幼い女の子を描く。1人目と違って、情緒表現は豊かである。想像のなかでは1人目の女の子のそばにいと述べる。

本症例には幼いけれども女性性が育ってきてい

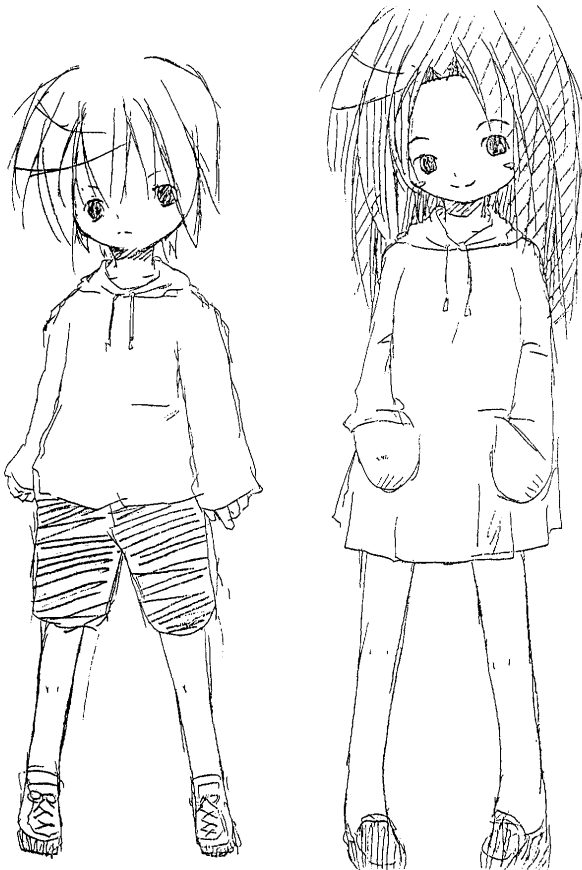


図2 症例2のHTPPの人物画

る。しかしそれを受け入れられていない。また想像性の活発さも表わされる。これらの様子は、ロ・テストとほぼ重なる。

考 察

1. 症例1について

本症例の特徴は、ロ・テストにおいてペニスへの関心、男性性への憧れが強いことである。精神分析においては、女性性の獲得過程の基礎には、幼児期に女兒がペニスに対する意識的・無意識的な羨望をどのように処理していくかが大きく関わっていると考えられている。Horney¹⁶は、母親が自分の女性性を適切に評価できず、女性としての価値を見出し得ないでいると、そのような母親に女兒は同一化して、男性に対して憧れを抱くようになると述べている。また、Klein¹⁵は、女兒は自分の膣に対する無意識的な認識を持っており、父親のペニスを受け入れたいという欲求があり、父親のペニスを母親がするように受け入れたいと空想し、母親に同一化すると述べている。しかし、女兒と母親との関係に何らかの不安があると、母親から報復されると不安や罪悪感が引き起こされるとも指摘している。そのため女兒

は母親に同一化するのではなく父親を良い対象として、父親への同一化、父親のようにペニスを持ちたいという願望を強めていく。これらからは、幼児期に女兒が女性に同一化していくうえで、女性モデルとして母親の存在が重要である。母子関係や、母親自身が女性性をどう受け入れ、いかに評価しているかが大きいといえよう。さらには母親と父親の関係も、母親自身の女性としての意識に大きく関わっており、夫婦関係も子どもが同性のモデルを得るうえで大きな影響をもっている。

上述の視点から、本症例のように女性性への同一化が幼く曖昧で、ペニスへの関心が強く、また父親への同一化がみられ、母親は女性のモデルとして同一化の対象になりにくい場合には、幼児期の母子関係、夫婦関係が一つの要因として考えられる。児童期は、勉強や友人との関係が生活の多くを占めるようになり、性別が強く意識させられることは少ない。しかし、思春期には二次性徴という身体の大きな変化に出会い、自分の性別を改めて意識させられる。本症例は、幼児期の性同一性として女性性の獲得はある程度できているが、そこには曖昧さが残されており、児童期を過ぎて思春期に改めて自分の性に出会い、その曖昧さが改めて表面化する。自分が同一化する対象として男性と女性の間で葛藤が再燃し、ペニスへの関心と父親への憧れへの方向づけが再び強められた。

女性としての身体を受け入れられず、女性に同一化しきれず、かといって男性にもなりきれないという葛藤は耐え難く、物事を抽象的にして自分と距離をとることで、直面化を避けてきた。そしてGIDという概念を知ることによって、男性へと同一化しやすくなっているが、性同一性は不安定なままである。Erikson¹⁷によると、青年期の課題は自己を一つのまとまりへと統合して自我同一性を確立することであり、性同一性は自我同一性の基底となる。本症例は性同一性の不安定さを抱え、他者と対等な愛情関係を結ぶことも難しいなかで青年期の課題に取り組んでいる。

2. 症例2について

本症例は未熟ではあるけれども女性への同一化がされており、男性への積極的な同一化傾向はみられない。豊かな想像性や感受性など、自己の内界を適切に外的現実には表現する術を身につけておらず、自らを持て余し、想像の世界で過ごすことで刺激の多い対人場面から身を引いてきた。そのため、自分を現実と照らし合わせる機会は限られ、性別に関しても強く意識したり葛藤することも少なかった。しかし、思春期の身体の変化を避けられず、その生々し

さに圧倒されて強い不安と恐怖を感じ、身体レベルで女性性を感じて性別に対する違和感と困惑が大きくなった。母親は女性性を感じさせず女性モデルにはなり難く、父親は不安を感じさせる存在であるため同一化の対象とはなり得ない。本症例は身近に性同一性の方向性や目標の手がかりとなる存在を見つけにくいなかで、GID という概念に出会う。そしてGID の概念の“性別の違和感”という漠然としたところに同一化する。自我同一性は、まとまりへと向かい始めた状態で、確立には今後外界に出ていくことと、性別の問題に取り組むことが大きな課題となる。

3. 2 症例の共通点について

共通してみられるのは、①思春期の身体変化の影響、②身近な同性モデルを見つけ難いこと、③GID の概念との出会い、という3点である。

①思春期の身体変化の影響は、明確な性同一性を備えていない2症例にとって、自分の女性性を直接突きつけられる大きな力であった。一般に、思春期女子にとって二次性徴による身体の変化は、男子のそれに比べて具体的で劇的であり、女性性を引き受けていくことは容易ではない。女子に限らず思春期の身体変化による新たな自分との出会いは、思春期・青年期の危機として取り上げられ、精神的な安定を大きく揺さぶる。性別の同一化が曖昧な場合には、この変化を受け入れることは容易ではなく、強い混乱と恐れが引き起こされる。これは特に症例2の心理検査の結果に表わされている。

2点目は、②身近な同性モデルを見つけ難いことである。人が性別の概念を身につけるきっかけは、幼児期に最も身近な両性である親との関わりである。その後、同性や異性の他者との関わりを通して、性別の身体・心理・社会的な側面に触れ、その特性を取り入れていく。性同一性を確立するなかで、同性の特性のみではなく、異性の性質も自分に備わっていることに気づき、それを受け入れていく。このように性同一性には親のみでなく、その他様々な他者との関わりが重要になる。しかし、なかでもその根幹となるモデルは同性の親であり、親のイメージや両親の関係、そして自身と両親との関係が性同一性の確立には重要である。2症例の性同一性の混乱と両親のイメージはそれを示している。GID の家族には、離婚が多いという点も指摘されており^{18,19}、更なる検討が求められる。

③GID の概念との出会い、これが2症例にとっては性同一性を含めた自我同一性を一時的に安定させることにつながっている。性別の違和感をもつ場合は、性同一性を獲得し安定させながら同時に自我同

一性を確立しなければならない。GID への同一化により、性別の違和感と身体変化の衝撃からさらに強い精神的な混乱へと陥らずに、安定を保っている。

4. 2 症例の違いについて

2症例の違いは、同性と異性への同一化の程度にみられる。症例1は思春期を迎えるまで性別の同一化は曖昧なままで、思春期以降に父親、つまり男性への同一化を強めた。一方症例2は、未熟ではあるけれども女性への同一化がされており、思春期に身体への嫌悪感が強まり、女性性には近づけず、また父親は男性モデルとなり得ず、性同一性を定められない。性同一性が曖昧な場合は、性同一性の安定において、同性の親のみでなく異性の親の存在、そのイメージが、精神的な安定と性同一性の獲得過程に影響している。

ジェイムズ²⁰は、青年期女性が性同一性を確立する過程において、父親への同一化も重要であり、父親への同一化には女性性の獲得に対する防衛として働く態勢と、能動的姿勢や異性との対象関係へと向かわせる発達促進的な態勢の二つがあり、防衛としての態勢から発達促進的な態勢への転換は児童期の課題であると述べている。この防衛としての態勢が未解決なままに思春期・青年期を迎えると、防衛として働く態勢が優勢になり、男性への同一化を強めたり、性愛やその対象の混乱などの問題が顕在化すると指摘している。症例1には、この防衛としての態勢が優勢になっていることが認められる。つまり、女性性の獲得過程での混乱に対する防衛として、男性への同一化が起こっており、それがGIDの同一化につながっている。

ま と め

青年期女性の性同一性障害の2症例について、ロ・テストとHTPPの人物画より、性同一性の発達を中心にその特性を考察した。2症例の共通点は①思春期の身体変化の衝撃を大きく受け、性の生々しさを引き受けかねている、②母親が同性のモデルになり難い、③GIDに同一化することで、精神的な安定がもたらされている、の3点である。一方違う点は、同性と異性への同一化の程度であった。人が性別の在りようをどのように安定させて自分らしく生きるかは大きな課題である。今後の研究課題は、対象者を増やし性同一性の獲得の過程とそこに影響する要因について、さらに検討を重ねていくことである。また心理検査の解釈が現実から離れ過ぎてしまわぬよう、常に臨床場面での現実の姿と照らし合わせることで、また心理検査の結果をどのように患者に伝えることが、その人の今後につながっていくのか

を模索していくことが課題である。

謝 辞

このような研究の機会をくださりました精神神経科学教室の方々、日々の臨床を支えてくださったスタッフの方々に深く感謝いたします。

文 献

1. 山内俊雄 (2000) 性差とはなにか, ジェンダーを通して男らしさ, 女らしさを考える. 埼玉医大誌 27:70-77
2. 庄野伸幸 (2001) 心理検査からみた性同一性障害. ロールシャッハ法研究 5:29-42
3. 都築忠義 (2004) 性同一性障害の心理的対応. 山内俊雄編. 改訂版性同一性障害の基礎と臨床. 新興医学出版社 108-115
4. 江川哲雄 (2003) 性同一性障害における HTPP の性別反応. 近畿大医誌 28:259-268
5. 福井 敏, 矢野里佳, 西村良二 (2002) 性同一性障害 (G. I.D.) にみる依存性について. 福島大医誌 29:29-36
6. 中平暁子, 吉野真紀 (2004) 性同一性障害者の心理的特性—WAIS-R, MMPI, ロールシャッハ・テストの結果から—. 日本心理臨床学会第24回発表論文集:271
7. 森 美加, 高橋道子, 牛島定信, 中山和彦 (2005) 性同一性障害における性役割志向. 臨床精神医学 34:951-957
8. 河村代志也, 秋山 剛, 五味洵隆志, 関根義夫 (1997) 性同一性障害の1症例. 臨精医 26:793-800
9. 亀谷 謙, 成田善弘 (1999) 性同一性障害の1症例—診断治療に関する医学的・心理社会的考察—. 臨精医 28:563-573
10. 古橋忠晃, 丸山 明, 西岡和郎 (2005) カウンセリングによって男性に対する同一感が消失した女性の1例. 精神医 47:909-911
11. 及川 卓, 餅田彰子 (1990) 性別同一性障害とロールシャッハ・テスト—女装症の精神分析的な心理療法とロールシャッハ・テスト (再テスト) の照合・対比. ロールシャッハ研究 32:55-69
12. 融 道男, 中根允文, 小宮山実訳 ICD-10 精神および行動の障害. 東京:医学書院. 1993
13. 片口安史 改訂 新・心理診断法, 金子書房, 1987
14. 高橋雅春 描画テスト入門—HTP テスト, 文教書院, 1974
15. Klein M. エディプス葛藤の早期段階. 子どもの心的発達, 誠信書房, 1983
16. Horney K. 女らしさからの逃避. 女性の心理, 誠信書房, 1982
17. Erikson E H. 自我同一性, 誠信書房, 1973
18. 佐藤俊樹, 山本文子, 井戸由美子, 中島豊爾, 黒田重利 (2001) 性同一性障害の臨床解析. 精神医 43:17-24
19. 阿部輝夫 (2004) 性同一性障害の周辺, 山内俊雄編. 改訂版性同一性障害の基礎と臨床. 新興医学出版社:90-107
20. ジェイムス朋子 (2005) 青年期女性の人格発達における男根性の統合に関する研究. 教育研究 47:103-109